CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)柏の葉キャンパス新技術センター計画　A棟　新築工事

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版
欄に数値またはコメントを記入　■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q　建築物の環境品質						**4.0**
Q1　室内環境			0.40		-	**3.9**
1 音環境		**4.4**	0.15	-	-	**4.4**
1.1 室内騒音レベル	事務室NC-40	**4.0**	0.40	3.0	-	
1.2 遮音		**5.0**	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	開口部遮音性能：T-2	5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能	Dr=50	5.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能（軽量衝撃源）		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能（重量衝撃源）		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音	床：タイルカーペット、天井：ロックウール吸音板	**4.0**	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		**2.9**	0.35	-	-	**2.9**
2.1 室温制御		**4.1**	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能	[外壁]U=0.8W/㎡・K、[窓]U=2.08W/㎡・K、SC=0.48	4.6	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性	ペリメータ、インテリアゾーニング、4管式AHU、冷暖切替	5.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御		**3.0**	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		**4.7**	0.25	-	-	**4.7**
3.1 昼光利用		**4.5**	0.31	-	-	
1 昼光率	U=6.3%	5.0	0.59	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	ハイサイドライトを採用	4.0	0.41	3.0	-	
3.2 グレア対策		**5.0**	0.29	-	-	
1 昼光制御	電動ブラインド	5.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度	500lx	**4.0**	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御	明るさセンサー	**5.0**	0.24	3.0	-	
4 空気質環境		**4.2**	0.25	-	-	**4.2**
4.1 発生源対策		**4.0**	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建築材料を使用（70%）	4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		**4.0**	0.30	-	-	
1 換気量	中央管理方式の空気調和設備、30㎥/h人	4.0	0.34	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮	各種排気と異方位、かつ6m以上	5.0	0.34	3.0	-	
4.3 運用管理		**5.0**	0.20	-	-	
1 CO_2の監視	管理マニュアル	5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	屋外の喫煙スペースがある	5.0	0.50	-	-	
Q2　サービス性能		–	0.30	-	-	**4.3**
1 機能性		**4.3**	0.40	-	-	**4.3**
1.1 機能性・使いやすさ		**3.6**	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	将来的に複数キャリアを引き込める空配管を設置している	4.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準	4.0	0.35	-	-	
1.2 心理性・快適性		**5.0**	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高：2.7m	5.0	0.34	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース3.8%、自動販売機あり	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画	パースによる内装の事前検証を実施している	5.0	0.34	-	-	
1.3 維持管理		**4.5**	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	OAフロア、壁掛け便器など	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	清掃用具庫に洗い場を設置し、排水設備への経路を確保している	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		**4.5**	0.30	-	-	**4.5**
2.1 耐震・免震・制震・制振		**5.0**	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	最大層間変形角1/175	5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	免振構造	5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**3.6**	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	カーペット：20年	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	(厨房排気)の全てに、SUSやガルバニウムダクトを採用	5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	空調配管：難燃性断熱材被覆銅管・・・C	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		**5.0**	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	換気設備の系統区分、、吊配管、災害時の優先運転・電源供給	5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	グリーン購入法適合品、火災時の汚水槽、井水、災害等の停電時に飲料用	5.0	0.20	-	-	
3 電気設備	非常用発電機、UPS、電源車接続時に利用可能な照明等の配線	5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスS	5.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	光・メタル、1FにMDF室、UHF・BS・CS、ネットワーク機器用の無停電装置	5.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり		4.6	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高：4.5m	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率：0.14	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり	事務室4900N／㎡	4.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性		3.6	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性	冷媒・ドレン配管は全て天井内またはPS内にに布設されている	4.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	OAフロア・ラックの採用	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	OAフロア・ラックの採用	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）		–	0.30	-	-	4.0
1 生物環境の保全と創出	敷地周辺の生物環境の立地特性の把握・計画方針の設定	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	街との一体感、通りを走った時に楽しい	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	テラスから光を取りこみ開放性を確保している	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	煙突経由排熱設備を設置しない。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-		-	4.2
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	4.8
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI＝0.66	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	ハイサイドライトを採用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.59	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用		4.5	0.20	-	-	4.5
集合住宅以外の評価		4.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	中央監視/BEMS、熱源機COP・熱源システムCOP・熱媒搬送WTF評価	5.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	運用管理体制の組織化、建物全体のエネルギー消費量の目標値を設定	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護		4.0	0.20	-	-	4.0
1.1 節水	節水コマ、自動水栓に加えて省水型機器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		4.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用	4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	雨水を雑用水としてトイレ洗浄水に利用	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		4.3	0.60	-	-	4.3
2.1 材料使用量の削減	PHC杭、キャプリングパイル工法、デッキ合成スラブ、機械式継手	5.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	鉄骨梁等に電炉鋼を使用	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル系床材(フロアリュームソイルドNW)、ボード類(ソーラトン)、スラッジを用いた路盤材（路盤）	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法、OAフロア	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用	ケミクリートE	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）	押出法ポリスチレンフォーム、吹付ウレタンフォーム（ノンフロン）	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	BEI=0.59	4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		1.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率=48.4%	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	必要貯留量を敷地内で確保している	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	IN・OUTを分け車路幅を広く確保	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	0.50	-	-	
2 振動		3.0	0.50	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-		
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。	5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	